

前熊寺の韋駄天立像

前熊・前熊寺に祀られている韋駄天立像(16.0cm)は、頭上に兜と思われる菱形様の突起が彫られ、長髪、お顔は眼球を突出させ、額と目尻に皺が刻まれ、大きい鼻、口許に微かに笑みがみられる。これらは円空の韋駄天像の特有の表情である。上下に連なった衣で、衣全体に縦の刻線が施されており、衣左右が鰭状に刻されているのも円空仏の特徴であり、合掌して杳を履き岩座に立つ。背面は平らにされており、肉眼でも、赤外線撮影をしても墨書は認められない。

長久手市には本像の他に、杣ノ洞・永見寺に円空の薬師如来坐像(36.0cm)が安置されている。尾張旭市・庄中観音堂には、円空仏5体(観音菩薩立像 123.0cm 不動明王立像 92.8cm 毘沙門天立像 91.5cm 阿弥陀如来坐像 67.4cm 薬師如来坐像 54.8cm)が祀られている(現、尾張旭市・スカイワードあさひ蔵)。庄中観音堂は、前熊寺・永見寺の北西、凡そ5km程の距離である。現在、岡崎市・満教会に祀られている不動明王三尊(不動明王立像 70.7cm・制多迦童子立像 37.5cm、矜羯羅童子立像 36.5cm)は、もと日進市岩崎地区の山中の祠に祀られていた像であり、日進市岩崎地区は、前熊寺、永見寺の南西約5kmに位置する。前熊寺、永見寺は、庄中観音堂と日進市岩崎の中間点にあり、地理的にみれば同時期に円空が巡錫したと思われ、両寺の像はいずれも当地で造像されたと考えられる。

庄中観音堂は名古屋市守山区・龍泉寺に近く、同寺には延宝4年(1676)の背銘がある馬頭観音菩薩立像が安置されている。庄中観音像と龍泉寺の像はよく似ており、庄中観音堂諸像の造像は延宝4年前後と推定される。

前熊寺、永見寺の円空仏は、龍泉寺、庄中観音堂、日進市岩崎地区の巡錫経路に位置づけられ、強い彫りと豊かな表情の様式観点と合わせて、延宝4年頃の造像と考えられる。

小島梯次・記